

第6号議案の決議対象はP10-P11です。

インパクト志向金融宣言

# 2024年度 事業計画

1. 2023年度の振り返り
2. 2024年度の計画

# 1. 2023年度の振り返り

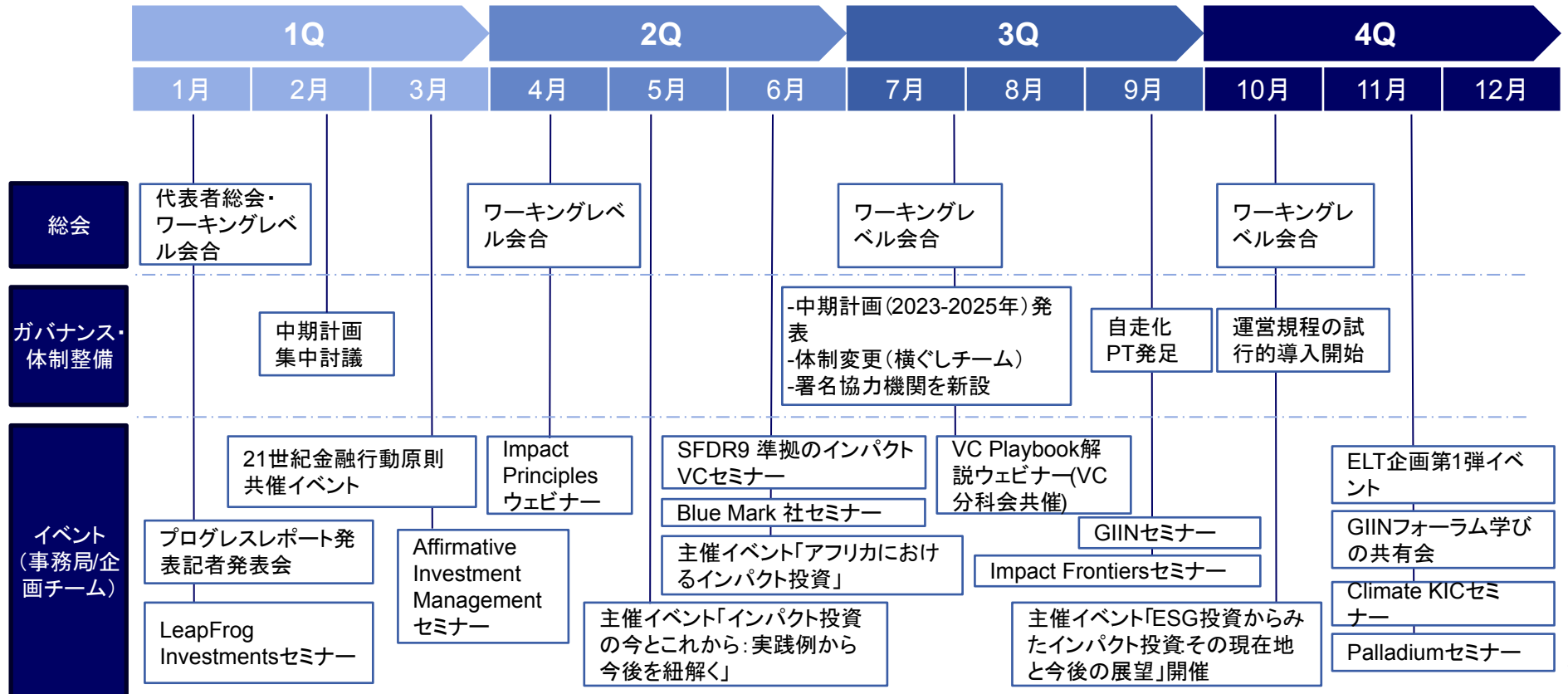
# インパクト志向金融宣言 中期計画 (2023-2025年)

○：必ず実施  
△：リソースをモビライズし、実施の有無を決定

	活動内容	優先度	役割 (次ページ参照)
1	インパクトファイナンスの実践を支援する包摂性の高い活動を継続する	○	VC、地域金融、S指標
2	先進事例・データ・ツールを意欲的に収集・分析し、指標や指針を開発する	● 海外の最新動向やフレームワークの紹介	○ 海外連携、各分科会
		● 先進事例の情報収集・共有（クロスオーバー投資や非上場・上場の連結の好事例、IMMや開示の好事例等）	○ 各分科会、IMM
		● インパクト関連データの整備・作成・集約・公開(※)	△ 事務局/IMM/各分科会
		● 参加金融機関のベンチマーク調査（IMM実践等）・ピアレビュー	△ 事務局/IMM /各分科会
		● 社会性指標の開発、基準や指針の整理、コンセプト開発	○ S指標、VC、地域金融
3	人材の育成を推進する	○	各署名機関、各分科会、事務局/IMM
4	活動内容や成果、インパクト創出事例を定期的・戦略的に発信する	● 活動内容や成果に関する情報発信（対金融業界、対事業会社、その他対マスメディア向け）	○ 事務局/IMM、海外連携
		● インパクト大賞、認証制度の創設	△ プロジェクト
5	戦略的エンゲージメントを推進する	● 対金融機関内部（金融機関経営者を含む）とのエンゲージメント	○ 各署名機関、事務局/ELT
		● 対政策立案者（政府・自主規制機関）、資金の出し手（個人、年金基金）、投資先、証券会社等とのエンゲージメント	○ 地域金融、VC、AO/AM
6	プラットフォーム運営・活動基盤を強化する	● 自走化計画の策定・移行	○ 自走化検討
		● ガバナンスや運営規程の策定、情報蓄積・共有の仕組み構築、ブランド力の強化、包摂性の維持、あたらしい金融の在り方検討	○ 事務局/プロジェクト

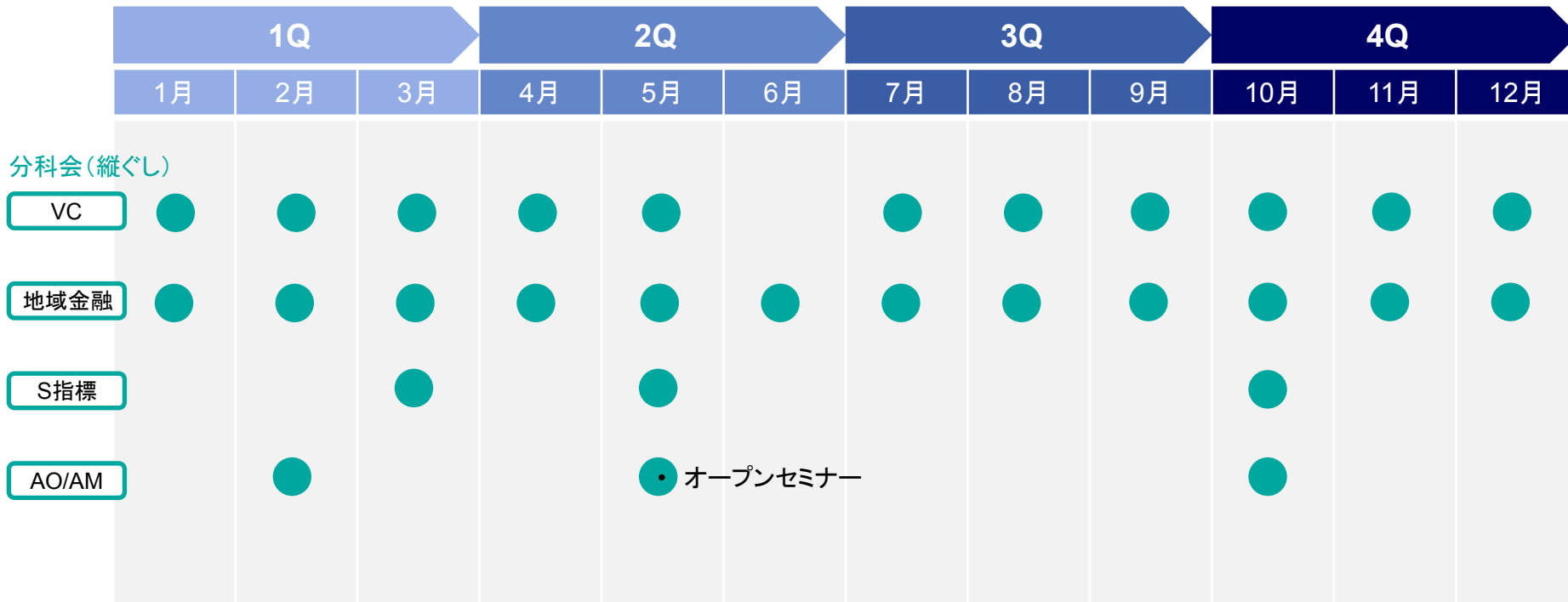
(※)他の取組みとの連携の上で、本プラットフォームでの活動実施内容・範囲を検討

## 2023年の活動実績(全体/企画チーム)



# 2023年の活動実績(分科会)

各分科会で、定期的な会合・イベントを実施



# 2023年の分科会活動成果

分科会

2023年の主な成果(アウトカム)

## VC分科会

①分科会メンバーの実際の投資判断基準の共有、② Impact Aligned VCの事例紹介(北欧)、③ Impact VC(欧州のインパクトVCネットワーク)作成の投資ガイドラインに関する勉強会、④ Big Society Capital/Impact VCの Managing Director をお招きした勉強会、⑤日本版のインパクト VC ガイドライン初版に向けた意見交換・調査、⑥分科会メンバーの IMM現状と今後への期待に関するアンケート  
(定量:①VC分科会の社数増加(+10社)達成(18⇒34社)、②VC分科会のActive Participantsの維持(平均10社)達成)

## 地域金融分科会

- ・「地域PIFの三層構造モデル」「インパクトファイナンス4象限」の提唱
- ・国内PIF調査(国内動向、業種・KPI分析)の開始
- ・投資と融資の接合のあり方に関する検討の開始
- ・地域におけるポジティブ・インパクトに関する検討の開始
- ・アンケートを踏まえ具体的活動内容を決定

## S指標分科会

- ・IMMIにおける指標の位置づけの確認
- ・EとSの指標における違いとグローバルの現状と課題の確認
- ・Social課題の地域性について(国内プラットフォーム運営企業との対話)
- ・中期計画ゴール設定「Social指標における国内事例のカタログ」  
(分科会参加組織で事例の紹介と検証を開始)

## AO/AM分科会

- ①本分科会主催のセミナーの実施、②本分科会の参加金融機関数の拡大、③新たな AOへのアプローチの検討開始、④インパクトと企業価値の関係にかかる調査研究成果の共有

# 2023年の主なメディア掲載実績

掲載年月	掲載メディア	
2023年1月	日経新聞(2回)、ニッキン、Hedge Guide、日本証券新聞、時事フィナンシャルソリューションズ、中日新聞、金融財政事情	「インパクト志向金融宣言」 「プログレスレポート2022」発表
2023年2月	保険毎日新聞	
2023年3月	朝日新聞	
2023年5月	保険毎日新聞	
2023年6月	日刊工業新聞、金融財政事情、ニッキン	署名機関が50機関超え
2023年8月	Hedge Guide	7月に中期計画発表
2023年10月	Hedge Guide、日経グローバル	
2023年11月	ニッキン、日経ビジネス	ELT企画第1弾イベント開催

# 中期計画 (2023年度の進捗)

A : 着実な進捗あり  
B : 一部進捗あり  
C : 進捗なし

	活動内容	優先度	2023年進捗
1	インパクトファイナンスの実践を支援する包摂性の高い活動を継続する	● 署名機関間の情報共有やピアラーニングによる実践の悩み解決、実践の蓄積、象徴的事例の創出	○ A:各分科会や企画チームの活動を通して継続的に実施
		● 海外の最新動向やフレームワークの紹介	○ A:海外連携企画が主に推進
2	先進事例・データ・ツールを意欲的に収集・分析し、指標や指針を開発する	● 先進事例の情報収集・共有（クロスオーバー投資や非上場・上場の連結の好事例、IMMや開示の好事例等）	○ A:各分科会や企画チームの活動を通して実施
		● インパクト関連データの整備・作成・集約・公開(※)	△ C
		● 参加金融機関のベンチマーク調査（IMM実践等）・ピアレビュー	△ B:VC分科会で取組み中
		● 社会性指標の開発、基準や指針の整理、コンセプト開発	○ B:地域金融分科会とS指標分科会で調査開始
		● 金融機関がインパクトファイナンスを推進していくために必要な多様性ある人材の育成、確保	○ B : 分科会活動や各機関内で推進（成果をどう測るか？）
4	活動内容や成果、インパクト創出事例を定期的・戦略的に発信する	● 活動内容や成果に関する情報発信（対金融業界、対事業会社、その他対マスメディア向け）	○ A:レポート発行やセミナー実施により、メディア掲載あり
		● インパクト大賞、認証制度の創設	△ C
5	戦略的エンゲージメントを推進する	● 対金融機関内部（金融機関経営者を含む）とのエンゲージメント	○ B : ELT実施(継続希望あり)
		● 対政策立案者（政府・自主規制機関）、資金の出し手（個人、年金基金）、投資先、証券会社等とのエンゲージメント	○ B : AO/AM分科会でAO連携に向けて協議
6	プラットフォーム運営・活動基盤を強化する	● 自走化計画の策定・移行	○ B:自走化PT発足
		● ガバナンスや運営規程の策定、情報蓄積・共有の仕組み構築、ブランド力の強化、包摂性の維持、あたらしい金融の在り方検討	○ B:運営規程の試行導入開始、会員専用ページの開設

(※)他の取組みとの連携の上で、本プラットフォームでの活動実施内容・範囲を検討



## 2. 2024年度の計画

# 2024年の活動計画(全体/企画チーム主導)

	中計	活動内容	役割
分科会間の連携強化	① ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>IMMIに関する各分科会の取り組みに横串を刺し、情報共有、相互乗り入れの仕組みとして各分科会から「IMMI担当」を任命し、定期的(月1回を目途)にIMMI担当会議を開催。各分科会におけるIMMI関連のニーズや取り組みについて情報交換、相談、協議を実施し、新たなIMMI企画も推進</li> </ul>	IMMI
インパクト関連情報・データ整備	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>「IMMI担当会議」や運営委員会での討議を経て、宣言署名機関(アセットクラス問わず)のため「IMMIの基本的あり方」文書を作成</li> </ul>	IMMI
		<ul style="list-style-type: none"> <li>先行する欧米事例の理解、IMMIに関する海外の知見・最新動向を紹介するイベントを計画・実施</li> <li>IMMI含め、インパクトファイナンスに関する海外のスタンダードや方法論をアップデートし、国内との差分を整理・共有</li> </ul>	IMMI+海外連携
		<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクトファイナンスの算入基準に関する海外の基準との意見交換会を催すなど、海外の知見も活用しながら宣言としての基準の調整に貢献</li> <li>定義・算入基準のさらなる進化とガイダンスのアップデート。特に、融資における「マネジメント」の要件について議論を、融資・債券分科会と連携し推進</li> </ul>	算入基準+IMMI (+融資・債券分科会)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクトと企業価値の整理調査/研究の推進</li> </ul>	事務局
人材育成に関する議論の深化・計画策定	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>分科会でのピアラーニング継続、人材育成に必要な追加的取り組みの整理</li> </ul>	事務局、IMMI、海外連携
インパクト大賞の検討	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクト大賞の創設検討</li> </ul>	事務局、運営委員有志、アドバイザー
インパクト関係情報発信のさらなる強化	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>書籍出版、イベント開催、海外向け発信</li> </ul>	事務局、海外連携
戦略的エンゲージメントの取組み強化	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に経営者エンゲージメント、AO/AM向けエンゲージメントの強化</li> </ul>	事務局(+AO/AM分科会)
自走化方針の決定	⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月WL会合での決議</li> </ul>	事務局、自走化PT
他のプラットフォームとの戦略的連携	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクトコンソーシアム、GIIN等海外機関との連携強化</li> </ul>	事務局、海外連携

# 2024年の活動計画(分科会主導)

分科会	2024年の主な計画(注力分野)
VC分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共学:ピアラーニングや海外事例を通じた、各分科会メンバーの実務レベルの知識向上</li> <li>・発信: Impact VC Playbook日本語版やインパクトVCリストの作成・公開を通じたインパクト投資のエコシステム作り促進</li> <li>・連携: 定期的な懇親会等を通じたコミュニティ強化や投資案件連携等の促進</li> </ul>
地域金融分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PIF調査の結果およびポジティブインパクトのあり方等を総合的に勘案したあるべきPIの検討</li> <li>・インパクト主導型の地域における投資と融資の接合の在り方についての提言</li> <li>・エンゲージメントや取り組み体制等、より実践的な情報の共有</li> <li>・インパクトコンソーシアム地域・実践分科会との効果的な連携の模索</li> </ul>
S指標分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Social指標における国内事例のカタログの作成のため、分科会参加組織においてMMの枠組みを活用した基づいた事例の紹介と検証を実施する</li> <li>・金融機関以外の先行事例などの勉強会</li> </ul>
AO/AM分科会	<p>分科会主催のセミナー実施や合同参加などを通じ下記を目指す。</p> <p>①アセットオーナーの参画に向けたアプローチ、②インパクト投資について事例共有(組織としての導入プロセス、投資事例、投資先を含めたステークホルダーへの開示)、③ステークホルダーとのエンゲージメントを通じインパクト投資への理解促進④アライアンス設立検討、理解促進のための定量データの検討、投資先企業との対話、個人向け発信など)</p>
融資・債券分科会(新)	<p>2023年7月に公表されたデットHMMガイダンスの議論を引き継ぎ、融資・債券市場の拡大と同バリューチェーンにおけるHMM高度化を展望し、①具体事例を通じたHMM・エンゲージメントの課題整理、②他分科会と連携し、融資・債券におけるHMMのコンセンサス醸成、ならびに、③市場拡大に向けた、グローバル目線での日本市場分析や、キャパシティビルディングに取り組む</p>

## 【参考】2024年の活動計画（IMM企画）

	IMMに関する海外の知見、最新動向を紹介する Webinar（案）	インパクトファイナンスの算入基準に関する海外の基準との意見交換会（案）
1-2月		算入基準について欧州での考え方（英国 Impact Investing Institute 等）セミナー
3-4月	Impact Management Platformによるインパクトマネジメント最新動向セミナー	
5-6月	IMMに関する日本と海外の意見交換（Social Impact Day またはコンソーシアムイベントにて？）	
7-8月		
9-10月		GIIN Impact Forum にて、日本発案のセッション？？
11-12月		

※ 以上のほかにも、「IMM担当会議」や海外連携企画との協議のもと、適宜計画・実施していく。

# 【参考】2024年の活動計画（海外連携企画）

※下記アイデア全てを実行というよりは、下記の中で出来るものを実施していく。

## ①学ぶ（ウェビナーもしくは対面セミナー）

### ガイドライン団体等

- ・Impact Frontiers
- ・Impact Principles(Operating Principles for Impact Management)

### 先進的な取り組みを行っている実務者の紹介

- ・Bridges Fund Management、LeapFrog等の先進的なMarket rate インパクト投資家
- ・Acumen Fund等の先進的なBelow Market rateインパクト投資家
- ・BlueMark等の国際的なインパクト監査団体
- ・60 Decibels等のインパクトデータ計測団体
- ・そのほか、来日するインパクト投資家・関係者に合わせて随時開催 (Eric Rice、LeapFrog等)

### コミュニティ等の活動紹介

- ・グローバルGlobal Impact Investing Network
- ・欧州Impact VC
- ・米国Impact Capital Managers
- ・グローバルThe Turner MIINT (MBA Impact Investing Network & Training)

### アカデミア

- ・Harvard Business School等のアカデミア機関のリサーチ・活動紹介

## ②つながる（対面ネットワーキングイベント）

### 対面ネットワーキング

- ・欧州Impact VC とのイベント
- ・米国Impact Capital Managersとのイベント
- ・GSG Global Summit (10月?)
- ・Global Impact Investing Network VC Knowledge Hub
- ・Global Impact Investing Network Impact Forum(10/23-24 @Amsterdam)

## ③発信する（カンファレンスでのパネルやウェビナーでの発信）

### 日本のケースの発信

- ・PEI Responsible Investor Japan (5月)
- ・金融庁インパクトコンソーシアム主催カンファレンス (5-6月?)
- ・Global Impact Investing Network Impact Forum(10月)
- ・Global Impact Investing Network VC Knowledge Hubウェビナー(未定)
- ・日本版Impact VC Playbookおよび事例紹介を作成・発信